

## [1] 開祭

2022年12月18日、待降節第四主日の礼拝を始めます。

しばらく間をおいてから入祭唱を唱（とな）えます。

### 入祭唱 (イザヤ45:8)

天よ、露をしたたらせ、雲よ、義人を降らせよ。地よ、開いて救い主を生み出せ。  
主イエス・キリストよ、おいでください。弟子たちの中に立ち、復活のみ姿を現されたように、わたしたちのうちにもお臨みください。

### 懺悔と赦しの祈り

しばらく自らを省みた後で唱えます。

全能の神に告白します。わたしは、思い、ことば、行ない、怠りによってたびたび罪を犯しました。全能の神がわたしたちを憐れみ、罪をゆるし、永遠のいのちに導いてくださいますように。 † アーメン

### あわれみの賛歌 ♪ (キリエ)

ひとりで礼拝しているときは、先唱だけを歌います。

先唱 キリエ・エレイソン

後唱 キリエ・エレイソン

先唱 クリステ・エレイソン

後唱 クリステ・エレイソン

先唱 キリエ・エレイソン

後唱 キリエ・エレイソン

### 集会祈願

ともにいてくださる神よ、あなたはひとり子イエスを、世の救い主として遣わしてくださいました。降誕祭を間近にひかえたわたしたちが、幼子イエス・キリストのうちに、愛と希望の光を見いだすことができますように。

聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に行き、支配しておられるみ子、わたしたちの † 主イエス・キリストによって。アーメン

## [2] みことばの典礼

### 第一朗読 イザヤ書 7:10-14

最初に第一朗読 ○○記 ○章○節からといって読み始めます。本文の（ ）は聖書の接続詞、代名詞を補うためのことばですので、音読します。本文の冒頭の数字○○:○○は文章番号ですので読みません。

(その日) 主は更にアハズに向かって言われた。「主なるあなたの神に、しるしを求めよ。深く陰府（よみ）の方に、あるいは高く天の方に。」

しかし、アハズは言った。「わたしは求めない。主を試すようなことはしない。」  
イザヤは言った。「ダビデの家よ聞け。あなたたちは人間にもどかしい思いをさせるだけでは足りずわたしの神にも、もどかしい思いをさせるのか。それゆえ、わたしの主が御自（おんみずか）らあなたたちにしるしを与えられる。

見よ、おとめが身ごもって、男の子を産みその名をインマヌエルと呼ぶ。

朗読の終わりは次のように唱える。

第一朗読を終わります。

## 第二朗読 [ローマの信徒への手紙 1:1-7](#)

第二朗読 ○○○ ○章○節からといって読み始める。

キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び出され、召されて使徒となったパウロから、（兄弟の皆さんへ）

この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。この方が、わたしたちの主イエス・キリストです。わたしたちはこの方により、その御名を広めてすべての異邦人を信仰による従順へと導くために、恵みを受けて使徒とされました。この異邦人の中に、イエス・キリストのものとなるように召されたあなたがたもいるのです。神に愛され、召されて聖なる者となったローマの人たち一同へ。わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

朗読の終わりは次のように唱える。

第二朗読を終わります。

## 福音朗読 [マタイによる福音書 1:18-24](#)

マタイによる福音 1 章 18 節以下に記された主イエス・キリストの福音。

朗読者はここで十字をきる。利き腕の指を額・くちびる・左肩・右肩の順番におく。

†主に栄光。主に栄光がありますように。

イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそか

に縁を切ろうと決心した。このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎（たい）の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れた。

朗読の終わりは次のように唱える。

主に感謝。主に感謝します。

## 説教

説教は黙読でもかまいません。何人かで礼拝していれば、一人が音読します。

待降節第4主日 12月18日

## イエス・キリストの誕生

マタイ1章18-24節

ヨセフがどのような経緯でマリアの妊娠を知ったのかはマタイ福音書からではわかりません。マリアがヨセフに告げたのか、ヨセフがふくらんだお腹に気づいたのか、それとは別に世間のうわさで知ることになったのか。ヨセフは苦しみ悩み、考えに考えてマリアと縁を切る、つまり婚約はしたけれど結婚しない、婚約を破棄すると結論しました。

このヨセフの決心についてはふたつの解釈があります。1つはユダヤ社会の掟・モーセ律法にもとづいて姦淫疑惑のあるマリアとは結婚しないと結論した。2つめはヨセフは聖霊によって妊娠したことを理解した、つまりこの妊娠には神の介入があるということに気づき、身を引こうと決心した。つまりヨセフは神を畏れ敬って、恐れ多くて、マリアとは縁を切る決心をしたとする解釈です。

このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」マタイ

ヨセフはイエスに始めて出会った人です。誰もみたことない、まだマリアの胎内にいるイエスを知った人です。インマヌエル（=我々と共におられる神）に出会った恵まれた男です。しかし、ヨセフからすれば「なんでオレなの？」という気持ちがありませんでした。せつかくマリアと結婚することが決まっています、これから二人でささやかな家庭を築いていこうと願っているだけなのにマリアは妊娠している、ユダヤの掟に従って離縁することもできる。聖霊が宿した男の子だって、なんでほかの奴ではいけないのか。どうしてオレなんだ？

それに対する答えはヨセフがダビデの子孫、ダビデの子だからというのがマタイ福音書の回答です。預言によってそれは決まっているのだということです。一方、マリアにいたってはそんな理屈もありません。ルカ福音書では大天使ガブリエルがおめでとう、とマリアに告げるだけです。マリアはとまどいつつも受け入れます。

**マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。ルカ1:38**

ヨセフにおきたこと、マリアにおきたことはよく考えてみれば私たちだって同じです。一人ひとりが今ここにいる、私はここにいる、という事実はどんな理屈をつけようが説明できません。いままでの人間関係や社会的功績、その他いろいろをいくら積み重ねても、人が人としてここにいる、という事実はできません。ただここにいるからいる、それだけ、人の存在にはそういうところが必ずあります。

そして、人が人であるということ、人として生きるように定められていることも、これも自分でなったわけではありません。ですから人が人として生きるように、この世界に置かれているということ、これは単純で条件はない、何も理由がない。いくらコレコレのことを積み重ねてオレは生きている、悪いことはしていないとか、こんな私なんて生まれるはずじゃなかったとか、オレみたいなものが生きていてもしょうがないとか、また私が死ぬなんて不公平だ、などとは全然別のことです。人が人として存在するということは、単純に、人として存在する。あたりまえですが、自分が自分で考えて生まれて来た人はいません。自分が望んで、この父から、この母から、この時

代に、この国に生まれてきた人なんていないのです。

いるからいる、ということは、これはどうすることもできない。来ている事実、人として生きるように、与えられた状況の中で、その形をなしている。そういうかたちでお前も生きろ、これを受け入れるしかほかはありません。

そういう意味でダビデの子ヨセフの大変な状況というのは私たちが置かれている状況と根本的には違いはない。ここでのヨセフと同じように人間の根本状況というものは恐れおののかなくてはならないのです。

**ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおりに、妻を迎え入れた。** マタイ 1:24

ヨセフの戦慄、驚き、また恐れるなということばをありがたく聞いた状況、命令を受け入れたヨセフというのは私たちと決して縁のない人ではありません。全然別の人ですが、ただの無縁の人ではありません。ヨセフそしてマリアが受け入れたイエス受胎、そのときの苦しみ・そのときの嘆き・そのときの決意というものが分からなければ、わたしたちは本当にいま、ここで生きるということができないと思います。

きょうの福音を、神がみ子によって与えてくださった恵みと希望を私たち一人ひとりが自分自身のこととして聞くのでなければ、それは美しいおとぎ話、あるいは不思議な昔話の一節に過ぎないものになってしまいます。実際のところ教会の内でも教会の外でも、降誕の物語はそのようなもの、私たちの救いとは何の関係もないものとしてクリスマスは人々のかたわらを流れ過ぎていきます。今日の集会祈願をふたたび祈り、むすびとします。

ともにいてくださる神よ、あなたはひとり子イエスを、世の救い主として遣わしてくださいました。私たちが幼子イエスのうちに、愛と希望の光を見出すことができますように。アーメン

---

## 使徒信条

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。

また、その独り子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。

---

主は聖霊によって宿り、おとめマリヤから生まれ（ここで礼をする）ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました。

そして全能の父である神の右に座しておられます。そこから主は生きている人と死んだ人とを審くために来られます。

また、聖霊を信じます。聖なる共同の公会、† 聖徒の交わり、罪の赦し、体のよみがえり、永遠の命を信じます アーメン

---

## 共同祈願

神の導きに信頼して祈りましょう。

- ・神がわたしたちとともにいてくださることをいつも心にとめ、日々の生活の中で、喜びをもってキリストをあかしすることができますように。
- ・争いや対立を生み出す人間の罪を一人ひとりが自分の中から見つめ直し、神のみ心にかなう平和を求めて働くことができますように。
- ・困難のうちに年末を迎えようとしている人々を力づけてください。人となられたみ子キリストが、すべての人の希望となりますように。
- ・（いまあなたに必要な祈りがあれば追加して祈りましょう）

いつくしみ深い父よ、あなたはひとり子イエスによってすべての人を照らしてください。救いの恵みに感謝するわたしたちが、喜びをもって主の降誕を迎えることができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン

## [3] 感謝の典礼（にうつります）

- ・聖餐をおこなわない場合は以下を省略して[4]の「主の祈り」をおこなう。
- ・聖餐のパンとぶどう酒は、ここでテーブルのうえにおく。しばらく黙想する。

## 叙唱

黙読する。二人以上で礼拝している時は一人が音読する。

聖なる父、全能永遠の神、いつでもどこでも主・キリストによって賛美と感謝をささげることは、まことに尊いたいせつな務めです。主・キリストをすべての預言者は前もって語り、おとめマリヤはいつくしみをこめて養い育て、洗礼者ヨハネはその到来を告げ知らせました。キリストはいま、その誕生の神秘を祝う喜びをお与えになり、わた

私たちは絶えず目ざめて祈り、賛美しながら主を喜び迎えます。神の威光をあがめ、権能（けんろう）を敬うすべての天使とともに、わたしたちもあなたの栄光を終わりになくほめ歌います。

### 感謝の賛歌 ♪（サンクトゥス）

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神 主の栄光は天地に満つ い  
と高きところにホサナ

ほめたたえよ 主のみ名によって こられる方を いと高きところにホサナ

### 奉献文

黙読する。二人以上で礼拝している時は一人が音読する。

天の父よ、救い主、み子イエス・キリストによってわたしたちの感謝・賛美をお受けください。わたしたちはみ子の模範にならい、そのみ定めに従ってこの式典を行います。どうかみ言葉と聖霊により、主の賜物であるこのパンとぶどう酒を祝し、聖として、わたしたちのために主イエス・キリストの（パンとぶどう酒に向い十字を切りながら唱える。）

† 尊い体と血にしてください。

主は渡される夜、パンを取り、感謝してこれを裂き、弟子たちに与えて仰せになりました。

「取って食べなさい。これはあなたがたのために与えるわたしの体です。わたしを記念するためにこのように行いなさい」

☆合掌して深く礼をする。すこし間をおく。

また食事ののち、杯を取り、感謝して彼らに与えて仰せになりました。

「皆、この杯から飲みなさい。これは罪の赦しを得させるようにと、あなたがたおよび多くの人のために流すわたしの新しい契約の血です。飲むたびにわたしの記念としてこのように行いなさい」

☆合掌して深く礼をする。すこし間をおいて歌う。

♪ キリストは死に /キリストはよみがえり /キリストは再び来られます

### 記念唱

以下は途中まで黙読し、黒文字の部分から音読する。二人以上で礼拝している時は一人がグレーの部分も音読する。

わたしたちはいま、主イエスの死と復活の記念を行い、ここであなたに奉仕できることを感謝し、いのちのパンと救いの杯をささげます。キリストの体と血とともにあずかるわたしたちが、聖霊によって一つに結ばれますように。世界に広がるあなたの教

会を思い起こし、全教会を愛の完成に導いてください。

復活の希望をもって眠りについたわたしたちの兄弟とすべての死者を心に留め、あなたの光の中に受け入れてください。なお、わたしたちをあわれみ、永遠のいのちにあずかせてください。み子イエス・キリストを通してあなたをほめたたえることができますように。

キリストによって キリストとともに † キリストのうちに、聖霊の交わりの中で、全能の神、父であるあなたに。

(ここから音読)

わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めまた思うところの一切を、はるかに超えてかなえてくださることができる方に、教会により、またキリスト・イエスによって、栄光が世々に限りなくありますように。アーメン

#### [4] 交わりの儀式

##### 主の祈り

天におられるわたしたちの父よ、み名が聖とされますように。み国が来ますように。

みこころが天に行なわれるとおりに地にも行なわれますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。

† 国と力と栄光は、限りなくあなたのものです。アーメン

聖餐を行わない時は以下を省略して【感謝祈願】のIIの祈りを唱え閉祭へと進む。  
☆ここでパンを裂くときは次のようにいう。

わたしたちがパンを裂くとき キリストの体にあずかります。

パンが一つであるから わたしたちは多くいてもひとつの体です。

##### 拝領唱 (イザヤ 7:14)

黙読する。二人以上で礼拝している時は一人が音読する。

見よ、おとめがみごもって男の子を生む。その方の名はインマヌエルと呼ばれる。

##### 平和の賛歌 ♪ (アニュス・デイ)

世の罪を除く神の小羊よ、憐れみをお与えください

世の罪を除く神の小羊よ、主の平安をお与えください

##### 拝領

テーブルまたは祭壇に近づき、ひざまづく。

(沈黙のまま祈る) 「キリストの体が永遠のいのちの糧になりますように。」

十字を切り、アーメンと唱えてパンを頂く。

(沈黙のまま祈る) 「キリストの血が永遠のいのちの糧になりますように。」

十字を切り、アーメンと唱えてぶどう酒を頂く。

拝領後は着席し、沈黙のうちにしばらく祈る。

## 拝領祈願

〔I〕すべての人に愛を注がれる神よ、この集いから派遣されていくわたしたちを聖霊で満たしてください。主の降誕を心から祝うわたしたちが、多くの人と喜びを分かち合うことができますように。わたしたちの主 † イエス・キリストによって。アーメン

## [5] 閉祭

### 祝祷

父と子と聖霊なる全能の神の恵みが、常にわたしたちとともにありますように。

† アーメン

### 派遣の唱和

主の日の礼拝を終わります。行きましょう、主の平和のうちに。

(間をおいて) 主の平和がありますように。 † アーメン

これで礼拝は終わりです。しばらく黙想したのち、礼拝のために準備したものを片付けます。